

舞鶴

<教育目標>

No 4 自主・自律・豊かな心

村上市立村上第一中学校 令和4年7月22日発行

1 学期終業式講話

校長 仙田 健

県大会に出場した皆さん、本当にお疲れ様でした。皆さん一人一人にとって、心に残る大会となったことと思います。全県の強豪を相手に、実力を存分に発揮した素晴らしい試合ができたのではないかと私は思います。結果的には目標に届かず涙を飲んだ部もありましたが、目標に向けて、粘り強く、「自分は頑張った」つまり、「努力したという事実」は、皆さん自身の中に経験として蓄積され、人生をたくましく生きる力につながっていきます。そのことに、大いに自信をもって、これからの生活でも、部活動で培った「努力し続ける姿勢」を大切にしていって欲しいと思います。また、北信越大会出場を決めた剣道のN. Mさん、本当におめでとうございます。県大会を中学生の目標の舞台とすれば、北信越大会は夢の舞台です。この貴重な体験ができることに誇りと自信をもち、そして感謝の気持ちを大切に、精一杯大会を楽しんできてください。

さて、先日、高等学校の校長先生方とお話しする機会がありました。まず言われたのは、入学してくる生徒のあいさつがすごくいいということでした。中学校であいさつの習慣をしっかりと身に付けてきているんですねというお話で、とても誇らしい気持ちになりました。挨拶は習慣です。「相手より先に、いつでもどこでも誰にでも、さわやかな笑顔で、続けよう」をこれからも意識していきましょう。

もう一つのお話は、しっかりと中学校の学習を身に付けている生徒とそうでない生徒との差が広がってきており、中学校の基礎学力がないまま進学してくる生徒が増えているということでした。学習に関して、厳しい言葉をいただきました。言うまでもないことですが、高等学校の学習内容は中学校の内容が分かっていることが前提となっています。

近年、近隣の高等学校は倍率が1倍を切ることも多く、高校に入学するだけであれば、それほど難しくはない状況になってきています。しかし、問題は入学してからです。私は、高等学校に1年間勤務したことがあります。そのときに高校の先生から、中学校の学習内容の分量をコップに例えると、高校の学習内容の分量はバケツだと言う言葉を聞いたことがあります。バケツに対応するためには、今のコップの学習内容をしっかりと理解するとともに、家庭で学習する習慣を確実に身に付けることが必要です。

では、そのために、この夏休みに、何から始めたらよいのかということですが、私は、皆さんには頑張るって欲しいことが一つあります。それは、手帳とタブレットへの生活の「記録」です。実は、「記録」は新しい習慣を身に付け、継続させるためには、非常に効果的であるということが言われています。確かに考えてみれば、記録をするということは、毎日、目標を意識することになります。そして毎日、自分をチェックし、評価することになります。そして記録をみればうまくいっているかどうかはすぐに分かります。うまくいっていれば、達成感をもつことができ、自信につながりますし、逆にうまくいっていなければ、はっきりとその事実を自覚できるので、修正することは簡単です。このように一日1分もかからない記録の時間を毎日持つことで、大きな成果が得られます。是非ともこの夏は「記録」にしっかりと向き合ってみてください。このことをやりきれば、きっと自分の思い描く理想の生活習慣と学習習慣が身に付くはずですよ。いい習慣をこの夏休みでしっかりとつくっていきましょう。